

親御さんの想いと メンバーを乗せて、 共に生きていく

「今日は、午前中は、バリ取りと、B.T.FARMのお手伝いと除草です。午後もバリ取りをします！」
元気な声で二日の予定を読み上げるのは、メンバーのSさんだ。朝の会を進行するSさんに、ほかのメンバーが合いの手を入れる。学校のホームルームのような雰囲気だ。「くじら雲」の二日は、こうして始まる。

放課後等デイサービスを卒業した子どもたちの居場所を、という親御さんたちの声を受け、平成30年に誕生した「くじら雲」。所長を務める鹿谷英治さんは、教員として特別支援学級を担当したことが転機となった。
「困難を抱える子どもたちとの出会いがありました。この子たちの将来の育成に関わりたいと考えたんです」

他市の福祉施設の立ち上げに開き、運営のノウハウを学んだ鹿谷さん。スタッフさんたちと相談しながら、メンバーの皆さんや親御さんに寄り添い続けている。

手を差し伸べたいという 内なる衝動

「福祉とは、目の前で困っている人になんとか手を差し伸べられないか」という内なる衝動なんです。他の施設では断られてしまったという声を聞き、視覚障がいのある人や車いすの人などをくじら雲で受け入れたこともある。ある時は、80歳を超えるお父さんが息子さんを連れて、「うちの子を見てくださいか」と相談に来たこともあった。「働くをもちって『傍楽』^{はたらく}という言葉なんですけど。傍の者、親御さんに楽しませようと。日中をくじら雲で過ごしてもらおうと、親御さんから「や」と自分の時間を持てましたよ」と感謝の言葉をいただくんです」

現在、くじら雲を利用するメンバーは平均16人前後。知的障がい、精神障がい、身体障がい問わず受け入れている。バリ取りや箱の組み立てなどの内職等を行い、仕事量に応じてメンバーには工賃が支払われる。さらに、近隣農家で野菜の袋詰めや市役所等への出店な

Challengedの 現場 1

北本多機能型事業所
生活介護・就労継続支援B型

くじら雲

住所 石戸 5-287-1

電話 048-580-6120

FAX 048-580-6127



しかたに えいじ
鹿谷 英治さん

北本多機能型事業所
生活介護・就労継続支援B型
くじら雲
ワーカースコープ

この子たちのために 生きなきゃ

ど、施設の外の人と触れ合う時間も大事にしている。
「メンバーさんも仕事をするのが好きみたいで、帰りの会で『楽しかった』と言っています。仕事を通して、誰かの役に立っているんだという気持ちには、代えがたいですよ」

仕事以外にも歌声教室やイケコ体操、アルパム・絵手紙の制作を行う。今年の6月には、くじら雲初の試みとして、メンバーとスタッフが参加する長瀬へのバスハイイクを開催した。施設内には、さまざまな想い出の写真が飾られている。

鹿谷さんは、ある親御さんに面談で言われた言葉が胸に響いたという。
「スタッフの皆さん、ぜひこの子たちのために生きてください」と言われたんですよ。本当に……生きなきゃなって。くじら雲に乗った私たちは、メンバーのみんなを乗っけて、親御さんたちの思いを原動力にして、がんばって生きなきゃなって思いますね」

今年もやります！ 菊の鉢花レンタル



地域の菊名人さんに教えてもらいながら菊を育てています。花が咲く10月下旬ころから、くじら雲のメンバーがお届けに伺います。ご興味のある人はお問い合わせください。



くじら雲の菊の鉢花レンタルのWEBレポート

北本団地「中庭」に
月2回出店中



9月から、北本団地のシェアキッチン「中庭」に第1・3水曜日に。パンや手作り品、野菜などを販売中。

施設を飛び出し
農家さんへ



くじら雲のメンバーは、週4回、近隣農家のB.T.FARMで野菜の袋詰めなどの作業に従事している。従業員の皆さんともすっかり顔なじみだ。



バリ取りや箱の組み立てなどの軽作業を皆で行う。作業量に応じて工賃が支払われる仕組みだ。「工賃でドラえもん^{ドラえもん}のバッグを買ったよ」と話してくれたメンバーもいた。